



南条つ子

南条小学校だより

南条つ子は 進んで学ぶ子

R1.12.17 No.85

思いやりのある子

かいっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



○ 学校生活に関するアンケート結果 5、6年生対象

県教育委員会からアンケート調査がありましたので、本校の結果をお知らせします。

5 年		実施月	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかと言えば 当てはまらない	当てはまらない
ア	学校が楽しい	12月	38人(77.6%)	11人(22.4%)	0人	0人
		6月	32人(64.0%)	18人(36.0%)	0人	0人
イ	みんなで何かするのは楽しい	12月	37人(75.5%)	11人(22.4%)	1人(2.0%)	0人
		6月	41人(82.0%)	9人(18.0%)	0人	0人
ウ	授業に主体的に取り組んでいる	12月	13人(26.5%)	33人(67.3%)	3人(6.1%)	0人
		6月	29人(58.0%)	20人(40.0%)	1人(2.0%)	0人
エ	授業がよく分かる	12月	29人(59.2%)	18人(36.7%)	2人(4.1%)	0人
		6月	35人(70.0%)	13人(26.0%)	2人(4.0%)	0人

5年生は、アンケートを行った時、ちょうどSASA2019(福井県学力調査)の時期でしたので、「学校が楽しくない」と感じている児童が多いのではないかと考えていましたが、予想外の良い結果になりました。その分、授業に関する質問については、前回(6月)よりもやや悪い結果になってしまいました。

6 年		実施月	当てはまる	どちらかと言えば 当てはまる	どちらかと言えば 当てはまらない	当てはまらない
ア	学校が楽しい	12月	35人(85.4%)	5人(12.2%)	1人(2.4%)	0人
		6月	35人(85.4%)	6人(14.6%)	0人	0人
イ	みんなで何かするのは楽しい	12月	37人(90.2%)	4人(9.8%)	0人	0人
		6月	33人(82.5%)	7人(17.5%)	0人	0人
ウ	授業に主体的に取り組んでいる	12月	23人(56.1%)	17人(41.5%)	1人(2.4%)	0人
		6月	21人(51.2%)	17人(41.5%)	3人(7.3%)	0人
エ	授業がよく分かる	12月	30人(73.2%)	11人(26.8%)	0人	0人
		6月	34人(82.9%)	7人(17.1%)	0人	0人

6年生は、「みんなで何かするのは楽しいですか」、「授業に主体的に取り組んでいますか」という質問の結果が、前回よりもやや良くなりました。特に、「みんなで何かするのは楽しいですか」という質問には、90%の児童が、「当てはまる」と答えています。小学校での生活も残りあと3ヶ月弱となりましたが、素晴らしい人間関係のもとで、クラスや学年がしっかりまとまって

いるのだと思います。4つの質問の中では、「授業がよく分かりますか」という質問の結果がやや悪くなりました。

どんなことについても言えることだと思いますが、「やらされている」、「楽しくない」という気持ちで取り組んでいては、何をするにも上達しません。また、ちょっとした「わからない」ことの積み重ねから勉強が分からなくなり、やがて勉強嫌いにつながるおそれがあります。授業に向かう意識や態度、理解度について、見直してみましょう。

また、自分で考えても分からないことは、「先生に聞く」、「友達に聞く」、「家の人に聞く」・・・とにかく質問するのが一番です。恥ずかしがらず、どんどん質問しましょう。質問して分かったことを、他の人に分かるように説明することができるようになったら、本当に理解しているということです。→「教えることは、二度学ぶ事である。」:ジョセフ・ジュベール(フランス)

○ アイメッセージ 南条つ子だよりNo. 81号に補足

アイメッセージの「アイ」とは「I=私」の意味で、「自分(私)」を主語にする伝え方をアイメッセージ、ユーメッセージの「ユー」とは「you=あなた」の意味で、「相手(あなた)」を主語にする伝え方をユーメッセージと言います。これはアドラー心理学で使われている表現方法です。

相手(あなた)を主語にすることで(ユーメッセージにすると)、言われた方は相手から責められているように感じてしまいます。「私の言っていることが正しい」、「言う通りにしなさい」といったように感じてしまい、責められた相手は、素直に聞き入れることなく、怒ったり、反論したりと感情を出して自分を守ろうとしてしまいがちです。

それに対して、アイメッセージを意識して話すことで物事を柔らかく伝えることができます。自分(私)を主語にすると、あくまで自分の意見や思い、主観であることを伝えることができるので、相手を責めるような印象は薄くなります。また、そうすることで、相手も自分を守る必要がなくなるので、伝えたいことがストレートに伝わります。

例えば、「私は、あなたと一緒にいることができうれしい」、「あなたが頑張ってくれたのが、私はとっても誇らしい」というような言い方です。「難しい…」と思うのでしたら、とにかく「自分のことのように喜ぶ」だけでも十分です。だれかの成功を、自分自身の成功であるかのように喜ぶ。それを言葉にするだけでも、相手はとてうれしく感じるはずですよ。

さらにもっとシンプルに言うのであれば、「ありがとう」とお礼を言うのが、とても簡単で効果的です。「いつも助けてくれて本当にありがとう。」、「テストよくできたね。お母さんすごくうれしい。ありがとう。」感謝の言葉は、すなわち「自分はあなたにお礼を言いたいほどうれしく感じている」というメッセージでもあります。何より相手にとって幸せを感じさせます。

これは叱るときも一緒です。「なんてダメな子なんだ」、「あなたのやり方では、いつまでたってもうまくいかない」、「なぜ連絡して来ないのだ」これらはすべて、ユー・メッセージとなります。一瞬だけ、相手のことを従わせることはできるかもしれませんが、長続きすることはなく、相手の中に反発心がどんどん湧き上がっていきだけです。

それよりは、アイメッセージで話すこと。「今回のやり方は少し残念だった」、「連絡くれなくてショックだった」というような言い方になります。

ただそれであっても、やはりネガティブ(否定的、悲観的)な内容になってしまいますので、「〇〇はあまり良くないと思うから、△△のやり方にしてくれるとうれしい」というように、プラスの言い方を付け加える形にした方がより相手に伝わると思います。

「ユー(You)メッセージ」より「アイ(I)メッセージ」